◇卒業論文要旨◇

（昭和55年3月卒業生）

姫川の電源開発と青海町の化学工業の発展

池　原　尚　子

新潟県青海町は新潟県の最西端に位置し，ここでは電気化学工業株式会社（以下電化社と略す）を中核に数々の石灰工業製品が生産され，化学工業の町一色にぬりつぶされている。

大正中期までは半農半漁の一寒村であった青海町に電化社が設立されたのは大正10年のことであるが，以後，青海町の変貌はめざましい。特に戦後，電化社におけるアセチレンガスを中心とする合成化学部門の拡充，発展は化学工業のメッカとして青海町の特性を躍如たるものとし，さらに県内最初のセメント工場も設置されるにいたった。

電化社の設立にあたっては，青海町の面積の13％を占める黒姫山一帯の石灰石原料資源と北陸地方の豊富な水力電力資源が大きな立地要因となった。電力多消費企業である電化社では，その発展にともない，姫川を中心とする周辺河川に次々と自家用・準自家用発電所を建設していった。電力の大方を自社でまかなえるため，電力社の製品は強い市場競争力をもち，北陸の電源地帯としての有利性がうすれた現在でも尚，大きな強みとなっている。

電化社は当初肥料工場としてスタートしたが，有機合成部門へ主力を転換していくにつれて，工場の操業体制も大きく変化していき，電力の受電体制，労働力の配分形式は大きく変化する。それまで，安価な特殊電力と臨時工労働力に依存して不定時操業を行なっていたが，有機部門の大型プラントを稼動させるようになると操業の常時化がせまられるようになった。電力は特殊電力中心から常時電力化し，臨時工の採用も減っていった。

化学工業においては原料資源の開発は極めて重要な課題である。化学工業原料が地方的原料資源である石炭，石灰石にかわって石油資源が王座を占めるようになると，地方化学工業都市，青海もさまざまな余波を蒙ることとなった。

昭和40年以降，電化社の凋落のきざしはきわだってきた。地方産業の不振が僻地性の強い青海町に与えた影響は大きい。

電化社設立以来，急速に発展してきた青海町はそれまでとは対照的に人口は減少し，町の財政は悪化した。電化社の人員合理化にともなう社宅街の閉鎖は青海町の都市構造さえも大きくぬりかえてしまった。電化社の不振は青海町を一挙に新潟県下有数の過疎化進行地域にしてしまったのである。

電化社では有機合成部門に代わるものとして，近年セメント部門に主力を注ぎだし，その拡張に努めている。

ところが，昨今の石油価格の高騰により，石灰石を原料とする有機合成部門は再評価され，電化社では活況を取りもどしつつある。

地方単一工業都市，青海町は電化社一社の盛衰によって町全体が大きくゆれ動いてしまうきわめて

不安定な基盤の上にのっている。しかし，これは現在の日本の主要工業地域から取り残された地方工業都市の宿命なのかもしれない。

旧利根川沿いの自然堤防と後背湿地の土地利用

蔭　山　美千代

(1) 目　的

この論文は旧利根川沿いの自然堤防と後背湿地という異なる自然条件が，土地利用にどのように影響するかを，過去と現在に分けて考察することを目的とした。

(2) 枠　組

〔第一章〕自然堤防と後背湿地の自然条件の相違を明らかにした。

〔第二章〕土地利用の歴史を概観した。

〔第三章〕現地調査により，現在の土地利用状況を調べ，かつ自然堤防における陸田・後背湿地における宅地という自然条件に反する土地利用が生まれた理由を探った。

〔第四章〕この地域の地形を形成した洪水の流下経路を推定し，過去と現在の洪水防御方法を比較しつつ，最近の土地利用と洪水との関係を考察した。

(3) 要　約

旧利根川沿いはかつて頻繁に起きた洪水によって地形が形成された。この自然堤防と後背湿地という２つの地形は農業にとっては自然条件が異なる。中でも土地利用に影響したのは，その高度差と見ることができる。

①戦前まではこのわずか１〜２ｍの高度差によって，自然堤防は宅地と畑，後背湿地は水田という具合に地形に従った土地利用がなされていた。

②ところが戦後の土地利用では，地形の差は必ずしも障害とならなくなっており，以下のような土地利用の例が見られる。

ｏこの地域の上流部の旧利根川流路である会の川沿いの自然堤防には陸田が広がっている。これは，

・終戦後，食糧不足のため米価が高騰した。

・農地解放により用水管理権が小作の手に移った。

・揚水機を安価に利用できるようになった。

・昭和30年代後半から支持価格により米作が有利になった。

などの人文的諸条件があり，また農家にも積極的に農業を営む意欲があったので，陸田が発生したと見られる。

ところが，減反が推進される状況下にあっても，容易に畑作にもどそうとしないのは，この意欲が低下したためと思われる。すなわち，都市化の影響により，農業以外に収入の道をもつ農家がふえ，むしろ農業による収入よりも大きくなってきたので，農業経営の方は機械を使用でき，労力のかからない陸田にしておく農家が多いのである。